

日本病院ライブラリー協会 web 目録「Hospica」

による相互協力の形

—情報環境の変化の中で—

石川美奈子，吉富まち子，伊藤理恵，濱元ゆかり，大沼由紀子，長谷川湧子
日本病院ライブラリー協会

【はじめに】

日本病院ライブラリー協会（JHLA）では会員間の相互貸借（ILL）の促進を目的に，JHLA オリジナルの web 目録システム「Hospica」を開発，2015 年 6 月より運用を開始した。

【Hospica とは】

Hospica は各機関の所蔵情報データベースにとどまらない。利便性を重視し，PMID や医中誌 ID による書誌情報の自動入力，所蔵情報表示，文献複写申込みと管理までの機能を有する JHLA 電子版『雑誌総合目録システム』である。

【現状】

2018 年 6 月現在の参加機関数は 51，Hospica による 2017 年度の ILL は約 3, 200 件となっている。既存の web 目録に未加入の多くの施設には利便性を提供し，それにより相互協力を基にする ILL へ大きく寄与している。また Hospica には病院発行の医学雑誌や地方会の抄録，看護研究などの稀少な雑誌も登録されており，独自のデータベースとして今後の拡大が期待される。

【今後の課題と展望】

Hospica は検索の精度，書誌情報の整理，更なる機能の向上等システムの改良と継続していくための資金および人材の不足が大きな課題である。

一方で病院図書室は，予算や職場の理解に恵まれる施設は多くはなく，理想とした情報提供の環境を整備することが難しい現実がある。しかしエビデンスに基づく医療など，情報はますます重要性を増し迅速性が求められる。こうした状況において web 上のデータベースによる ILL こそが，これからの相互協力の形として最も求められその中心となっていくと考えられる。したがって JHLA は Web 目録「Hospica」を発展させていくことがその社会的責任を果たすものとして，取り組んでいきたい。